

授業科目名(英文名) / Course title	始動学修：考察（時事的問題） / Integrated Studies: Reflection				
担当教員(所属) / Instructor	高山 龍太郎(経済学部経済学科)				
授業科目区分 / Category	教養教育科目 基礎科目 社会的変化への対応（選択）				
地域課題解決型人材育成プログラム科目 / COC+Course 平成28年度入学者から適用	-	授業種別 / Type of class	講義科目		
開講学期曜限 / Period	2026年度 / Academic Year 第2ターム / Term 2 他	対象所属 / Eligible Faculty	教養教育科目a		
時間割コード / Registration Code	103454	対象学年 / Eligible grade	1年 ,2年 ,3年 ,4年	単位数 / Credits	1単位
ナンバリングコード / Numbering Code	1X1-00131-0300				
Moodleコース統合時間割コード / Moodle course join Registration Code	103454				
Moodleコース登録教員名 / Moodle course registered Instructor	高山 龍太郎				
MoodleコースURL / Moodle course URL	https://moodle51.u-toyama.ac.jp/course/view.php?idnumber=2026_103454				
各種教育プログラム1 / Various educational programs1					
各種教育プログラム2 / Various educational programs2					
各種教育プログラム3 / Various educational programs3					
各種教育プログラム4 / Various educational programs4					
各種教育プログラム5 / Various educational programs5					
SDGsとの関連 / Related SDGs	3 : すべての人に健康と福祉を 4 : 質の高い教育をみんなに 5 : ジェンダー平等を実現しよう 7 : エネルギーをみんなに そしてクリーンに 8 : 働きがいも経済成長も 9 : 産業と技術革新の基盤をつくろう 13 : 気候変動に具体的な対策を				
昨年度からの改善点 / Changes from last year					
リアルタイム・アドバイス / Real-time advice	更新日 2026/05/14				
9月18日（金） 遠隔 3限・4限西野 5限西野・佐藤 9月24日（木） 対面 2限・3限佐藤 4限・5限西野 9月25日（金） 対面 2限・3限本多 4限・5限大野 9月26日（土） 対面 1限大野 2限・3限大野・西野 4限高山					
授業のねらいとカリキュラム上の位置付け（一般学修目標） / Course Objectives	教育目標 / Educational Goals				

- ・問題発見につながる個別主題に関連した基礎知識を身につけ、活用する力をつける（幅広い知識）
- ・主題に関する課題に目を向け、問題を発見する（問題発見・解決力）
- ・グループワークなどを通して、他者の考えを理解し、自らの考えも情報発信する力をつける（コミュニケーション能力）
- ・問題の解決に向けて、自分の専門性や個人的資質が果たす役割に関する理解を深める（社会貢献力）。

私たちは今、「これまでの常識が通用しない時代」に生きています。AIの急速な進化、予測不能な国際情勢、そして社会の急激な変化。そんな不確実な時代だからこそ、必要なのは「学歴」ではなく、自ら学び、考え、行動する力＝“学習歴”と行動力です。

この授業では、政治・教育・介護・女性活躍など、現代日本が直面するリアルな課題をテーマに、各分野で活躍する実務家の講義を通じて、自分自身の生き方・働き方を考えていきます。講師の話聞くだけでなく、パネルディスカッションやグループワークもを行い、自分の意見を表現する力、他者の視点を取り入れる力を養います。

また、普段の大学生活では出会えない多様なバックグラウンドを持つ講師陣と対話を重ねることで、これからの人生を豊かにする視点と「自分らしい生き方」についてのヒントを得られるはずです。

大学生活の中で「将来の自分」をじっくり考えたい人、これからの社会をしなやかに生き抜く力を身につけたい人にとって、きっと忘れられない学びの時間になります

この授業の主題：「今抱える日本の課題を政治・教育・介護・女性活躍の視点から見つめなおす。これからの時代に自らの人生を望む形にするための視点を得る」

この授業では、日頃、学生の皆さんが触れることのない、各方面で活躍している様々な経験を持つ講師が講義を行います。

20世紀は劇的な変化と進化の世紀でした。その結果、日本は世界第3位の経済大国になりましたが、政治の不正行為、環境問題、高齢化・少子化、非正規雇用の増加など、国内においても多くの課題が存在します。

達成目標 / Course Goals

- (1) 主題に沿った課題についての知識を身につけ、問題点を見いだすことができる。
- (2) 主題に沿った学修を通して見いだした問題点について、多角的・理論的に分析し解決策を提案できる。
- (3) 問題点や解決策の検討にあたり、他者の考えを理解し、意思疎通しながら自らの意見を提示できる。
- (4) 上記問題の解決策について、自らの役割を認識できる。

より具体的には、以下の各点の達成を目指します。

- 世界や日本社会が抱える各分野の課題について理解する。
- 課題認識と考察を踏まえ、将来自分が何をすべきかを考え、自己認知力を養う。
- 学ぶということとは何か、大学在学中に何をすべきかを考えるきっかけを得る。

(以下は、この講義を通して身につけてほしいことに関する各先生のコメントです。)

<西野>

自分が「どんな時代に生まれるか」は選べません。でも、その時代を「どう生きるか」は自分で選ぶことができます。

いま私たちは、AIやデジタル技術の急速な発展により、社会や働き方が根本的に変わっていく真っ只中にいます。これまでのような「いい会社に入れば安泰」という時代はすでに終わりを迎えつつあります。これからは、何を学び、どう考え、どう行動できるか「自分で人生をデザインする力」が求められます。

この講義では、まず私たちがどんな時代に生きているのか、そして社会がどのように変化していくのかを歴史的背景やデジタルネットワークの進化を踏まえて紐解いていきます。そのうえで、「自分力」をどう身につけるか、自己認知をどのように深めていくかを一緒に考えていきましょう。

また、講義後にはレポートを提出してもらいます。そこでは、学んだことをもとに「これから自分はどう生きたいか」を、自分の言葉で書いてもらいます。さらに、パネルディスカッションやグループワークも予定していますので、積極的な意見交換や質問を通じて、学びを深めてください。

<本多>

世界中でさまざまな分断が生まれるいま、一人ひとりが違いを認め合い、自分らしく生きられる社会をどのようにデザインできるのかということに、私は強い関心を持っています。本授業では、音の大きさを振動や光に変換して音を伝えるアクセサリ型装置「Antenna (アンテナ)」や、駅の環境音やアナウンスを文字やオノマトペとしてリアルタイムに可視化する「エキマトペ」など、違いに触れ、行動変容を生み出すきっかけとなる“共創メディア”の事例をご紹介します。さらに、ワークショップを通じて、受講生の皆さんとともに共創メディアのあり方や可能性について考えていきます。本授業が、違いについて主体的に考え、行動へと踏み出すきっかけとなることを願っています。

<佐藤>

新型コロナ禍においては、対面よりもむしろICTによるコミュニケーションが主になりつつあり、ニューノーマルにおいては、「コミュニケーション」がもつ機能が変わりつつあります。コンサルティングファームにおける経験に社会心理学の視点を交えながら講義を行います。特に気にしなくてもとれる「コミュニケーション」ですが、実は適切にとれていない、その結果として、対人関係において生じる歪みや齟齬などに直面することは多くあります。講義を通じて、コミュニケーションを適切にとるためには、自らが考えることの重要性和そのために必要なことを、自分自身でも考える機会を提供したいと考えています。

<大野>

将来の自分のために学生生活の今何をやるべきか、社会人になるための知識を蓄え、「何のために働くのか」の目的と目標を明確にできることをこの講座の達成目標とします。また自分自身の存在価値を高め、社会に出て遭遇する方々とのコミュニケーションが円滑にできるよう思考・行動・接し方の基本として礼儀作法・マナーの重要性をあわせて理解していただければと思います。

授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class schedule

この授業は、「始動学修：実践（時事的問題）」（1単位）と「始動学修：実践（時事的問題）」（1単位）の両方を履修する条件で、単位認定いたします。すなわち、「2科目あわせて2単位でのみ単位認定」いたします（1単位のみでの単位認定はしない）。このため、授業計画（スケジュール）は、下記の通り「始動学修：実践（時事的問題）」と「始動学修：実践（時事的問題）」を一体的に行います。

【スケジュールは予定であり、変更の可能性があります。詳細は「リアルタイム・アドバイス」で連絡します。】

1. ガイダンス、授業の目的と期待（西野）
2. 現代社会と日本の課題（西野）
3. 事例から考える世界のダイナミズム 外部講師参加（西野）
4. 学生参加型討論（パネルディスカッション）
5. 共創メディアによる社会課題解決から価値創造へのアプローチ（本多）
6. デザインワークショップ：共創メディアを考える（本多）
7. 個人と社会の関係性（佐藤）
8. コンサルティング業務から見る社会（佐藤）
9. 自己のキャリア形成に必要な事（大野）
10. SDGsと社会参加(1)（大野）
11. SDGsと社会参加(2)（大野）
12. 現代社会のデジタル化とAIその影響（西野）
13. 国際的視野から見た日本（未定）
14. 学生参加型討論（パネルディスカッション）
15. まとめ（高山）

【1.テーマ、2.講義概略】

西野 弘（株式会社HIイニシアティブ代表取締役、NPO法人CeFIL副理事長 デジタルビジネスイノベーションセンター共同設立者）

筑波大学大学院情報生命学術院システム情報工学非常勤講師

1. 今我々はどのような時代に生きているのか？
2. 日本がなぜ不安が大きな社会になってしまったのか？日本人として今考えるべきこと。
人類の歴史から経済・社会・教育がどのように変化し、今後進化すべきかの考察
AIの台頭で、自らの人生を今後どのように生きる(生きる)ことが大事になってくるのか。
パネルディスカッション 他の講師も含めて西野と討議形式（学生も参加型）
ゲストスピーカーを招聘して多面的な視点から話を聞く。

本多達也（富士通株式会社 未来社会&テクノロジー本部 Antennaプロジェクトリーダー）

1. 共創メディアによる社会課題解決から価値創造へのアプローチ
共創デザインのアプローチによる、音を振動や光に変換して伝えるアクセサリ型装置「Antenna」や、駅の環境音をオノマトペとしてリアルタイムに可視化する「エキマトペ」といった「共創メディア」の実践事例を取り上げる。体験を通じて違いに気づき、理解し、受け入れ合うプロセスの中で、個人の認識や行動がどのように変容していくのかを探究する。
2. デザインワークショップ：共創メディアを考える（本多）
身近な違いや価値観の多様性を起点に、共創メディアのアイデアを考えるデザインワークショップを実施する。対話と発想のプロセスを重視し、グループワークを通じて共感と共創について考える。

佐藤 慎悟（大学経営コンサルタント）

1. 自らが考える価値基準を持つ意味
2. 大学生活と将来の社会生活はどのようにつながっているか、また、いわゆる「ばら色の人生」は存在するのか。自分の立ち位置から見えるものをどう判断していくことができるのか、などについて議論をしていきたい。
個人と社会のかかわりなど社会心理学の視点を取り込んだ考察を行う。
価値、判断などを下すプロセスの考察を行う。

大野祐子（株式会社ビジネスリファイン代表取締役）

1. 大変革の時代のキャリア形成。
人間的にも質的にも国力が衰えている日本。
自分の国、企業、個人のメンテナンスが必要な時代に人材育成・研修・人材派遣・紹介事業で支援を続けて35年目のキャリア。
今企業は人材確保・育成に力を入れています。組織が生き残るための企業の存在価値と戦略を考えています。
これから私たちは、組織に所属をし組織に守られる時代から、個々人の能力と質で、組織を守るといった信念が必要です。
自分の強み、能力を身に付ける為の将来のキャリアステージを考えて頂きます。
「学歴より学習歴の時代」
「個」の確立の重要性を学びます。
2. 2030達成目標であるSDGs（持続可能な開発目標）を通じて、社会変革への参画意義を学ぶ。
体験ワーク学習を通じて、SDGsを知る。社会、経済、環境にまたがる複合的な危機に対応しえない現代社会の課題を理解す

る。	
授業時間外学修（事前・事後学修） / Independent Study Outside of Class	Moodleなどを使って資料を配付し、事前・事後学習をおこなう予定です。授業の前に資料に目を通し、授業で何を学ぶべきか、自らの目的をもって授業に臨んでください（1日あたり30分程度）。授業終了後は、最終レポート作成のために、「将来自分が何をなすべきか」という観点から、簡略に文章をまとめてください（1日あたり20分程度）。
キーワード / Keywords	デジタル 教育 福祉 経済 政治 ビジネス、人生論、キャリアパス論、実務経験教員科目、SDGs、自己認知、自己変容科目
履修上の注意 / Notices	<p>この授業は、「始動学修：実践（時事的問題）」（1単位）と「始動学修：実践（時事的問題）」（1単位）の両方を履修する条件で、単位認定いたします。すなわち、「2科目あわせて2単位でのみ単位認定」（1単位のみでの単位認定はしない）いたします。必ず、「始動学修：実践（時事的問題）」と「始動学修：実践（時事的問題）」の両方を履修してください。</p> <p>< 授業の進め方での注意 > この授業では、事前学習のために、Moodleなどに受講生を登録してもらおう予定です。履修者の決定後に、登録方法を指示しますので、掲示などに注意してください。 ワークショップやグループディスカッションなど多様な授業を実施します。 また、授業の一部をメディア授業（Microsoft Teamsを使ったリアルタイムの双方向型オンライン授業を予定）で実施する予定ですので、メディア授業に参加するための機材等の準備を各自で行ってください。</p> <p>【講師の自己紹介】 < 本多達也 > 1990年香川県生まれ。博士（芸術工学）。大学時代は手話通訳のボランティアや手話サークルの立ち上げ、NPOの設立などを経験。人間の身体や感覚の拡張をテーマに、ろう者と協働して新しい音知覚装置を研究。2019年度グッドデザイン金賞。令和4年度全国発明表彰「恩賜発明賞」。令和7年度科学技術分野の文部科学大臣表彰科学技術賞。著書に『SDGs時代のソーシャル・イントラプレナーという働き方』（日経BP）</p> <p>< 佐藤慎吾 > 大学卒業後、民間シンクタンクに入社。官公庁の基礎調査や政策提言などを担当。95年にアーサーアンダーセン（現プライスウォーターハウスクーパース）に入社。民間企業のグループ経営のコンサルティングを経て、官公庁サービス事業を立上げ、現在に至る。現在、大学や研究機関のコンサルティング事業を担当している。</p> <p>< 大野裕子 > 福岡在住 テレビ西日本事業部を経て、九州最大の派遣会社の立ち上げに携わり、90年に株式会社ビジネスリファインを創業。「女性が活躍できる社会は美しい」という信念のもと、社員教育や研修事業、人材派遣、人材紹介事業などで働く女性、働きたい女性、企業とが共に成長する関係作りをサポートするウーマンリソーシングの事業を展開。2005年、大人が礼儀作法・文化教養を学ぶ、フィニッシングスクール インフィニ校長に就任。</p> <p>< 西野弘 > コンサルティング会社社長を30年務める。2016年に大手企業30社を集めてデジタルビジネスイノベーションセンターを設立、大手企業の個人や組織の変革を推進。 学んだ国は日本・スウェーデン・デンマーク。訪問した国は70ヶ国、話せる言葉は日本語・英語。勤めた会社は3社、設立した会社は5社。好きな人材は好奇心旺盛な人。富山で好きなのは美味しい酒と米と魚。もちろん富山人も。</p>
教科書・参考書等 / Textbooks	教科書 参考書 教科書・参考書に関するその他通信欄 授業中に指示します。

成績評価の方法 / Evaluation	<p>本科目では、「達成目標」について次のような割合で評価します。</p> <p>(a)達成目標（１）のうち基本的な知識（スキル・知的態度を含む）の修得に関する達成度（60%）</p> <p>(b)達成目標（１）のうち発展的な内容（スキル・知的態度を含む）の修得に関する達成度（20%）</p> <p>(c)達成目標（２）および（３）に関連した達成度（10%）</p> <p>(d)達成目標（４）に関連した達成度（10%）</p> <p>具合的には、講義終了後に提出するレポート（100%）。レポートでは、講義内容を深め、課題に自分の言葉で答えることを重視します。また、創造型ワークショップや議論への積極的な参加も期待します</p>
関連科目 / Related course	
リンク先URL / URL of syllabus or other information	
備考 / Notes	先生は学外講師の皆さんですので、特にオフィスアワーは設けません。質問などは集中講義期間中をお願いします。

授業科目名(英文名) / Course title	始動学修：実践（時事的問題） / Integrated Studies: Practice				
担当教員(所属) / Instructor	高山 龍太郎(経済学部経済学科)				
授業科目区分 / Category	教養教育科目 基礎科目 社会的変化への対応（選択）				
地域課題解決型人材育成プログラム科目 / COC+Course 平成28年度入学者から適用	-	授業種別 / Type of class	講義科目		
開講学期曜限 / Period	2026年度 / Academic Year 第2ターム / Term 2 他	対象所属 / Eligible Faculty	教養教育科目a		
時間割コード / Registration Code	103503	対象学年 / Eligible grade	1年 ,2年 ,3 年 ,4年	単位数 / Credits	1単位
ナンバリングコード / Numbering Code	1X1-00131-0400				
Moodleコース統合時間割コード / Moodle course join Registration Code					
Moodleコース登録教員名 / Moodle course registered Instructor					
MoodleコースURL / Moodle course URL	https://moodle51.u-toyama.ac.jp/course/view.php?idnumber=2026_103503				
各種教育プログラム1 / Various educational programs1					
各種教育プログラム2 / Various educational programs2					
各種教育プログラム3 / Various educational programs3					
各種教育プログラム4 / Various educational programs4					
各種教育プログラム5 / Various educational programs5					
SDGsとの関連 / Related SDGs	3 : すべての人に健康と福祉を 4 : 質の高い教育をみんなに 5 : ジェンダー平等を実現しよう 7 : エネルギーをみんなに そしてクリーンに 8 : 働きがいも経済成長も 9 : 産業と技術革新の基盤をつくろう 13 : 気候変動に具体的な対策を				
昨年度からの改善点 / Changes from last year					
リアルタイム・アドバイス / Real-time advice	更新日				
授業のねらいとカリキュラム上の位置付け（一般学修目標） / Course Objectives	教育目標 / Educational Goals				

- ・問題発見につながる個別主題に関連した基礎知識を身につけ、活用する力をつける（幅広い知識）
- ・グループワークや学内外での行動を通して、他者の考えを理解し自らの考えも情報発信する力をつける（コミュニケーション能力）
- ・グループワークや学内外での具体的行動も視野に入れて、主題に関する課題に目を向け、問題を発見する（問題発見・解決力）
- ・問題の解決に向けて、自分の専門性や個人的資質が果たす役割に関する理解を深める（社会貢献力）

私たちは今、「これまでの常識が通用しない時代」に生きています。AIの急速な進化、予測不能な国際情勢、そして社会の急激な変化。そんな不確実な時代だからこそ、必要なのは「学歴」ではなく、自ら学び、考え、行動する力＝“学習歴”と行動力です。

この授業では、政治・教育・介護・女性活躍など、現代日本が直面するリアルな課題をテーマに、各分野で活躍する実務家の講義を通じて、自分自身の生き方・働き方を考えていきます。講師の話聞くだけでなく、パネルディスカッションやグループワークも行い、自分の意見を表現する力、他者の視点を取り入れる力を養います。

また、普段の大学生活では出会えない多様なバックグラウンドを持つ講師陣と対話を重ねることで、これからの人生を豊かにする視点と「自分らしい生き方」についてのヒントを得られるはずです。

大学生活の中で「将来の自分」をじっくり考えたい人、これからの社会をしなやかに生き抜く力を身につけたい人にとって、きっと忘れられない学びの時間になります

この授業の主題：「今抱える日本の課題を政治・教育・介護・女性活躍の視点から見つめなおす。これからの時代に自らの人生を望む形にするための視点を得る」

この授業では、日頃、学生の皆さんが触れることのない、各方面で活躍している様々な経験を持つ講師が講義を行います。

20世紀は劇的な変化と進化の世紀でした。その結果、日本は世界第3位の経済大国になりましたが、政治の不正行為、環境問題、高齢化・少子化、非正規雇用の増加など、国内においても多くの課題が存在します。

達成目標 / Course Goals

- (1) 主題に沿った課題についての知識を身につけ、問題点を見いだすことができる。
- (2) 主題に沿った学修を通して見いだした問題点について、多角的・理論的に分析し解決策を提案できる。
- (3) 問題点や解決策の検討にあたり、他者の考えを理解し、意思疎通しながら自らの意見を提示できる。
- (4) 上記問題の解決策について、自らの役割を認識して主体的に行動したり、自発的に活動することの必要性を意識できる

より具体的には、以下の各点の達成を目指します。

- ・世界や日本社会が抱える各分野の課題について理解する。
- ・課題認識と考察を踏まえ、将来自分が何をすべきかを考え、自己認知力を養う。
- ・学ぶということとは何か、大学在学中に何をすべきかを考えるきっかけを得る。

(以下は、この講義を通して身につけてほしいことに関する各先生のコメントです。)

<西野>

自分が「どんな時代に生まれるか」は選べません。でも、その時代を「どう生きるか」は自分で選ぶことができます。

いま私たちは、AIやデジタル技術の急速な発展により、社会や働き方が根本的に変わっていく真っ只中にいます。これまでのような「いい会社に入れば安泰」という時代はすでに終わりを迎えつつあります。これからは、何を学び、どう考え、どう行動できるか「自分で人生をデザインする力」が求められます。

この講義では、まず私たちがどんな時代に生きているのか、そして社会がどのように変化していくのかを歴史的背景やデジタルネットワークの進化を踏まえて紐解いていきます。そのうえで、「自分力」をどう身につけるか、自己認知をどのように深めていくかを一緒に考えていきましょう。

また、講義後にはレポートを提出してもらいます。そこでは、学んだことをもとに「これから自分はどう生きたいか」を、自分の言葉で書いてもらいます。さらに、パネルディスカッションやグループワークも予定していますので、積極的な意見交換や質問を通じて、学びを深めてください。

<本多>

世界中でさまざまな分断が生まれるいま、一人ひとりが違いを認め合い、自分らしく生きられる社会をどのようにデザインできるのかということに、私は強い関心を持っています。本授業では、音の大きさを振動や光に変換して音を伝えるアクセサリ型装置「Antenna (アンテナ)」や、駅の環境音やアナウンスを文字やオノマトペとしてリアルタイムに可視化する「エキマトペ」など、違いに触れ、行動変容を生み出すきっかけとなる“共創メディア”の事例をご紹介します。さらに、ワークショップを通じて、受講生の皆さんとともに共創メディアのあり方や可能性について考えていきます。本授業が、違いについて主体的に考え、行動へと踏み出すきっかけとなることを願っています。

<佐藤>

新型コロナ禍においては、対面よりもむしろICTによるコミュニケーションが主になりつつあり、ニューノーマルにおいては、「コミュニケーション」がもつ機能が変わりつつあります。コンサルティングファームにおける経験に社会心理学の視点を交えながら講義を行います。特に気にしなくてもとれる「コミュニケーション」ですが、実は適切にとれていない、その結果として、対人関係において生じる歪みや齟齬などに直面することは多くあります。講義を通じて、コミュニケーションを適切にとるためには、自らが考えることの重要性和そのために必要なことを、自分自身でも考える機会を提供したいと考えています。

<大野>

将来の自分のために学生生活の今何をやるべきか、社会人になるための知識を蓄え、「何のために働くのか」の目的と目標を明確にできることをこの講座の達成目標とします。また自分自身の存在価値を高め、社会に出て遭遇する方々とのコミュニケーションが円滑にできるよう思考・行動・接し方の基本として礼儀作法・マナーの重要性をあわせて理解していただければと思います。

授業計画 (授業の形式、スケジュール等) / Class schedule

この授業は、「始動学修：実践（時事的問題）」（1単位）と「始動学修：実践（時事的問題）」（1単位）の両方を履修する条件で、単位認定いたします。すなわち、「2科目あわせて2単位でのみ単位認定」いたします（1単位のみでの単位認定はしない）。このため、授業計画（スケジュール）は、下記の通り「始動学修：実践（時事的問題）」と「始動学修：実践（時事的問題）」を一体的に行います。

【スケジュールは予定であり、変更の可能性があります。詳細は「リアルタイム・アドバイス」で連絡します。】

1. ガイダンス、授業の目的と期待（西野）
2. 現代社会と日本の課題（西野）
3. 事例から考える世界のダイナミズム 外部講師参加（西野）
4. 学生参加型討論（パネルディスカッション）
5. 共創メディアによる社会課題解決から価値創造へのアプローチ（本多）
6. デザインワークショップ：共創メディアを考える（本多）
7. 個人と社会の関係性（佐藤）
8. コンサルティング業務から見る社会（佐藤）
9. 自己のキャリア形成に必要な事（大野）
10. SDGsと社会参加(1)（大野）
11. SDGsと社会参加(2)（大野）
12. 現代社会のデジタル化とAIその影響（西野）
13. 国際的視野から見た日本（未定）
14. 学生参加型討論（パネルディスカッション）
15. まとめ（高山）

【1.テーマ、2.講義概略】

西野 弘（株式会社HIイニシアティブ代表取締役、NPO法人CeFIL副理事長 デジタルビジネスイノベーションセンター共同設立者）

筑波大学大学院情報生命学術院システム情報工学非常勤講師

1. 今我々はどのような時代に生きているのか？
2. 日本がなぜ不安が大きな社会になってしまったのか？日本人として今考えるべきこと。
人類の歴史から経済・社会・教育がどのように変化し、今後進化すべきかの考察
AIの台頭で、自らの人生を今後どのように生きる(生きる)ことが大事になってくるのか。
パネルディスカッション 他の講師も含めて西野と討議形式（学生も参加型）
ゲストスピーカーを招聘して多面的な視点から話を聞く。

本多達也（富士通株式会社 未来社会&テクノロジー本部 Antennaプロジェクトリーダー）

1. 共創メディアによる社会課題解決から価値創造へのアプローチ
共創デザインのアプローチによる、音を振動や光に変換して伝えるアクセサリ型装置「Antenna」や、駅の環境音をオノマトペとしてリアルタイムに可視化する「エキマトペ」といった「共創メディア」の実践事例を取り上げる。体験を通じて違いに気づき、理解し、受け入れ合うプロセスの中で、個人の認識や行動がどのように変容していくのかを探究する。
2. デザインワークショップ：共創メディアを考える（本多）
身近な違いや価値観の多様性を起点に、共創メディアのアイデアを考えるデザインワークショップを実施する。対話と発想のプロセスを重視し、グループワークを通じて共感と共創について考える。

佐藤 慎悟（大学経営コンサルタント）

1. 自らが考える価値基準を持つ意味
2. 大学生活と将来の社会生活はどのようにつながっているか、また、いわゆる「ばら色の人生」は存在するのか。自分の立ち位置から見えるものをどう判断していくことができるのか、などについて議論をしていきたい。
個人と社会のかかわりなど社会心理学の視点を取り込んだ考察を行う。
価値、判断などを下すプロセスの考察を行う。

大野祐子（株式会社ビジネスリファイン代表取締役）

1. 大変革の時代のキャリア形成。
人間的にも質的にも国力が衰えている日本。
自分の国、企業、個人のメンテナンスが必要な時代に人材育成・研修・人材派遣・紹介事業で支援を続けて35年目のキャリア。
今企業は人材確保・育成に力を入れています。組織が生き残るための企業の存在価値と戦略を考えています。
これから私たちは、組織に所属をし組織に守られる時代から、個々人の能力と質で、組織を守るといった信念が必要です。
自分の強み、能力を身に付ける為の将来のキャリアステージを考えて頂きます。
「学歴より学習歴の時代」
「個」の確立の重要性を学びます。
2. 2030達成目標であるSDGs（持続可能な開発目標）を通じて、社会変革への参画意義を学ぶ。
体験ワーク学習を通じて、SDGsを知る。社会、経済、環境にまたがる複合的な危機に対応しえない現代社会の課題を理解す

る。	
授業時間外学修（事前・事後学修） / Independent Study Outside of Class	Moodleなどを使って資料を配付し、事前・事後学習をおこなう予定です。授業の前に資料に目を通し、授業で何を学ぶべきか、自らの目的をもって授業に臨んでください（1日あたり30分程度）。授業終了後は、最終レポート作成のために、「将来自分が何をなすべきか」という観点から、簡略に文章をまとめてください（1日あたり20分程度）。
キーワード / Keywords	デジタル 教育 福祉 経済 政治 ビジネス、人生論、キャリアパス論、実務経験教員科目、SDGs、自己認知、自己変容科目
履修上の注意 / Notices	<p>この授業は、「始動学修：実践（時事的問題）」（1単位）と「始動学修：実践（時事的問題）」（1単位）の両方を履修する条件で、単位認定いたします。すなわち、「2科目あわせて2単位でのみ単位認定」（1単位のみでの単位認定はしない）いたします。必ず、「始動学修：実践（時事的問題）」と「始動学修：実践（時事的問題）」の両方を履修してください。</p> <p>< 授業の進め方での注意 > この授業では、事前学習のために、Moodleなどに受講生を登録してもらおう予定です。履修者の決定後に、登録方法を指示しますので、掲示などに注意してください。 ワークショップやグループディスカッションなど多様な授業を実施します。 また、授業の一部をメディア授業（Microsoft Teamsを使ったリアルタイムの双方向型オンライン授業を予定）で実施する予定ですので、メディア授業に参加するための機材等の準備を各自で行ってください。</p> <p>【講師の自己紹介】 < 本多達也 > 1990年香川県生まれ。博士（芸術工学）。大学時代は手話通訳のボランティアや手話サークルの立ち上げ、NPOの設立などを経験。人間の身体や感覚の拡張をテーマに、ろう者と協働して新しい音知覚装置を研究。2019年度グッドデザイン金賞。令和4年度全国発明表彰「恩賜発明賞」。令和7年度科学技術分野の文部科学大臣表彰科学技術賞。著書に『SDGs時代のソーシャル・イントラプレナーという働き方』（日経BP）</p> <p>< 佐藤慎吾 > 大学卒業後、民間シンクタンクに入社。官公庁の基礎調査や政策提言などを担当。95年にアーサーアンダーセン（現プライスウォーターハウスクーパース）に入社。民間企業のグループ経営のコンサルティングを経て、官公庁サービス事業を立上げ、現在に至る。現在、大学や研究機関のコンサルティング事業を担当している。</p> <p>< 大野裕子 > 福岡在住 テレビ西日本事業部を経て、九州最大の派遣会社の立ち上げに携わり、90年に株式会社ビジネスリファインを創業。「女性が活躍できる社会は美しい」という信念のもと、社員教育や研修事業、人材派遣、人材紹介事業などで働く女性、働きたい女性、企業とが共に成長する関係作りをサポートするウーマンリソーシングの事業を展開。2005年、大人が礼儀作法・文化教養を学ぶ、フィニッシングスクール インフィニ校長に就任。</p> <p>< 西野弘 > コンサルティング会社社長を30年務める。2016年に大手企業30社を集めてデジタルビジネスイノベーションセンターを設立、大手企業の個人や組織の変革を推進。 学んだ国は日本・スウェーデン・デンマーク。訪問した国は70ヶ国、話せる言葉は日本語・英語。勤めた会社は3社、設立した会社は5社。好きな人材は好奇心旺盛な人。富山で好きなのは美味しい酒と米と魚。もちろん富山人も。</p>
教科書・参考書等 / Textbooks	教科書 参考書 教科書・参考書に関するその他通信欄 授業中に指示します。

成績評価の方法 / Evaluation	<p>本科目では、「達成目標」について次のような割合で評価します。</p> <p>(a)達成目標（１）および（２）のうち基本的な知識（スキル・知的態度を含む）の修得に関する達成度(60%)</p> <p>(b)達成目標（１）および（２）のうち発展的な内容（スキル・知的態度を含む）の修得に関する達成度(10%)</p> <p>(c)達成目標（３）に関連した達成度(15%)</p> <p>(d)達成目標（４）に関連した達成度(15%)</p> <p>具合的には、講義終了後に提出するレポート（100%）。レポートでは、講義内容を深め、課題に自分の言葉で答えることを重視します。また、創造型ワークショップや議論への積極的な参加も期待します</p>
関連科目 / Related course	
リンク先URL / URL of syllabus or other information	
備考 / Notes	先生は学外講師の皆さんですので、特にオフィスアワーは設けません。質問などは集中講義期間中をお願いします。